

十一月二十一日

昼前研究室。埋立地の倉庫の件、昨夜梅沢さんと作った案を野村に説明し、作図を依頼する。別案の作図を松本に依頼。九州忍田さんとの打合わせの日を決めなくてはならぬ。日本アニメの高山さんにメール返信。トモコーポレーションと連絡、来週はJ・グライターと会うためにヴェネチア・インターナショナル・スクールに行くので、できれば今週中に案を作り、送らねばならぬ。李祖原に梅沢さんを紹介することになる。李の建築もチョッと変わるかも知れぬ。十五時三年製図採点。今年の女性達は良く頑張っている。十七時半修了。梅沢良三さん来室。李祖原を紹介。連絡事項を幾つか処理二〇時スケッチ少々。二十二時半世田谷に戻る。

十一月二十二日

バグダッドのシエラトン・ホテルと石油省にロケット弾が打込まれた。ロケット弾発射装置はガソリン販売用のロバにひかれた荷車だった。ロケット弾は草で隠されていたというその荷車とロバの写真が朝刊にのっている。アメリカ帝国の圧倒的なハイテク軍事力に対抗する、ロバと荷車。緑色に塗られた発射台の荷車とブルーの車輪、いかにもな振りを装ったロケット弾入りの荷車は色といい、形といい、まさしくデザインされている。これ以上の擬態は考えられぬ。が、これはまさに現代を象徴するデザインで

ある。九・一一ワールドトレードセンターによる崩壊の現場、あれは都市と砂漠の戦いであった。アフガニスタンのアルカイダ空爆は一方的な破壊だけが結果として残っただけだ。砂漠にミサイルを打込んででも仕方ない。砂漠は海なのだ。海に何億円のミサイルを打込んででも何も得られない。実は破壊さえもする事は不可能なのだ。アフガニスタンに続いてのイラク戦争である。アツと言う間に戦争は終り、アメリカは勝利宣言した。が、しかし又も砂漠という海が出現している。ヴェトナム戦争では、ジャンゲルという海とアメリカは戦わざるを得なかった。そして結局、アメリカは敗れた。そして歴史的に初めて内なる傷をその中に負ったイラク戦争に於けるアメリカのハイテク兵器は都市の破壊に対しては効果を発揮した。しかし、ロバと荷車が出現した。これは砂漠のアナロジーである。あるいはユーラシアのアナロジーである。インドで考えた事で堀田善衛はアジアは何でもかでも吸い込んで音も立てぬ凹型だと言ったが、このロバと荷車も又、一つの凹型なのだろう。毛沢東は農村が都市を包囲すると言った。それは中国ではそうならなかった。中国の超近代化の中で農村は都市に吸収されている。しかし、アフガンやイラクで現実には起きている事は砂漠が都市を崩壊させている事の歴史の繰り返しなのであるまいか。グローバリズムの渦中、我々は再びユーラシアの砂漠という海を眺めている。しかし、このロバと荷車は確かにデザインではあるのだが、破壊の為のデザインなのである。作るデザインの橋頭堡にはなり難い。

アルカイダのスポークスマンが日本が軍隊をイラクに上陸させるならば、東京の中心を攻撃すると二回目の警告を発した。そして、東京は攻撃し、破壊するのは容易であるとも述べている。そうだろうと思う。オウム真理教位の幼稚なレベルの破壊活動で

さえ簡単に可能だったのだから。良く考えられたゲリラ軍の巧妙な戦術には全くもろいだろう。東京が現実的にテロの対象となつた時に、戦後という時代そして平成という時代は終わるのではないか。

十二時より十五時迄打合わせ幾つか。十五時設計製図講評会、二〇時修了。二十二時迄懇親会。二十三時世田谷村戻る。